



手の魔術師

庄崎隆志

賢治の詩・手の詩

アリランの蛍と琉球の花

in 神戸



아리랑의 반딧불

アリランイバンティブル

手の詩人たちとJAZZの協奏



出演: 庄崎 隆志
南雲 麻衣 (聾者、ダンサー)
野崎 誠 (聾者、劇団しゅわえもん代表)
谷 源昌 (音楽担当)
山下 恵理 (字幕担当)

2012.1.21(土)

大震災後、東日本の皆さんに会ってきました。皆さんと巡り会う度、何かもっと深いところにある強い絆を感じてきました。みなさんからいただいた絆の力を源に、今回も楽しい手の詩・賢治の詩、アリランをしたいと思っています。何か新しい出発点になれるよう表現していきます!

(庄崎談)

開場 13:00 開演 13:30

一般 1,500円(前売) 1,800円(当日) 小学生・中高校生:500円

《会場》レバンテホール (神戸市立垂水勤労市民センター 3階)

神戸市垂水区日向 1-5-1

JR・山陽電鉄垂水駅東口下車、北東徒歩約3分

《問合せ先》

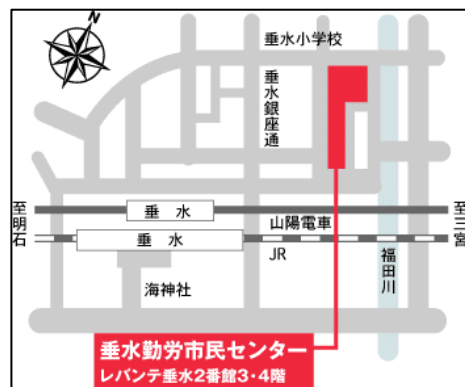
特定非営利活動法人神戸ろうあ協会 <チケット取り扱い>

FAX:078-371-3052 / TEL 078-371-3071

E-mail: NPO.kobedeaf@gmail.com

今回の公演は、東日本大震災聴覚障害者復興支援チャリティー・イベントとして実施します。言葉にこだわらず目に訴える舞台そして体に響くベースの響き!お楽しみください。

ぜひ、おいでください!お待ちしております!



【公演内容】

「賢治の詩・手の詩」

登場人物 賢治・・・・・・・・ 庄崎隆志

トシ・・・・・・・・ 南雲麻衣

何故賢治を選んだのか？

私は、宮沢賢治が好きである。賢治さんは歩くことが好きであった。

私も歩くことが好きなのである。私の『手』は歩かずにいられないのである。賢治の手は、書くことで夢を広げていった。私の手には無限の可能性があると信じて、表現を続けていきたいです。



「アリランの蛍と琉球の花」

登場人物 京坂ろう学校教師 (25) 増田大吾・・・・・・・・ 庄崎隆志

京坂ろう学校教師 (22) 寺田剛志(朝鮮人：慮龍志)・・・ 野崎誠

京坂ろう学校高校生 (17) 戸田尚美(沖縄出身)・・・・・・・・ 南雲麻衣

<あらすじ>

太平洋戦争末期の昭和20年初夏。聾の愛する京坂聾唖学校教師の特攻隊員が聾高校生(沖縄出身)の実家食堂に駆けつけ、今生の別れにライスカレーを食べに行った。

「私は京坂聾唖学校教師、日本名、寺田剛士、もう一人が朝鮮人の慮剛士です。隠して本当に申し訳ありません。僕たちは、明日沖縄へ向かって飛びます。死ぬ前に一度だけ思いっきり手話歌を歌わせてください・・・。」そして沖縄の空に出撃していった。

・・・・・・・・戦争犠牲者の鎮魂と平和をこめて

<演出の意図>

この作品、もともとは、2004年3月7日の大阪府ろうあ協会からの依頼がきっかけで作られたものがあります。大阪に手話劇の原点があると思います。戦前の大阪市立聾学校の松永端教諭は、大阪聾劇団「車座」の演出担当でもあった。彼は、ろう者のドラマツルギーを提唱し、手話言語や身体言語の奥にある深い思いや神秘の存在を確信していたのであります。

私はそれを知った時衝撃を受けた。私が日頃思っていたことは、すでに提唱されていたのであります。表現とは何かを問いかけたくここに取り上げました。(庄崎隆志)

庄崎隆志 Takashi Shozaki

office風の器主宰・演出家・劇作家・俳優・聾者

1981年、デフ・パペットシアター・ひとみ創立メンバー・代表・演出としてのプロフェッショナル演劇活動しながらワークショップ活動も続けてきました。創立してから2005年3月までの27年間、全国各地750箇所2000ステージ、ヨーロッパ、アメリカ、アジア等13ヶ国を公演してまいりました。演劇や京劇、日本舞踊、パントマイム、お神楽なども学び、現在も俳優、演出、脚本、美術も兼ねて活動しております。2005年3月のデフ・パペットシアター・ひとみ退団。Office風の器を立ち上げ、公演プロデュースやワークショップなどを広く活動を続けています。

1983年 第8回国際デフ・パントマイムフェスティバル 審査員賞ジュリー特別賞(チェコスロバキア)

1991年 国際アピリンピック(香港)舞台芸術部門銀賞最高アイデア賞

1992年(財)朝日生命厚生事業団「平成4年度児童福祉文化賞」受賞

2010年 横浜市・横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞

